

メモ欄

西東京三田会 歴史散歩の会

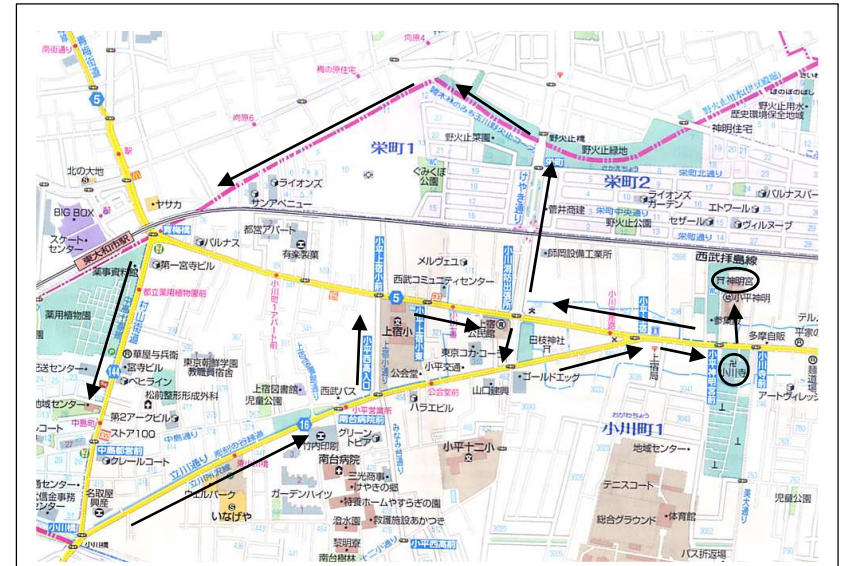
第6回

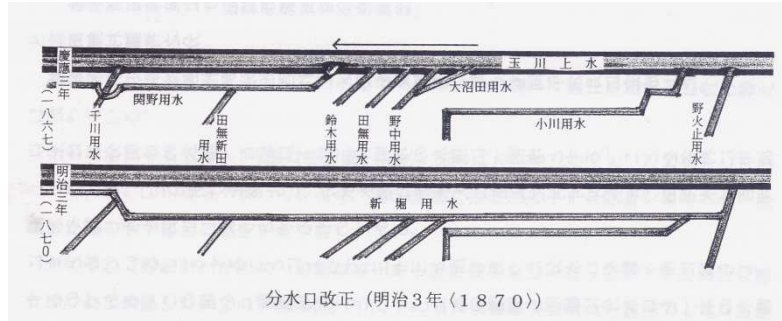
2015年2月22日

小平の源を訪ね歩く

最初の開拓村落の小川中心に七つの村や新田を合わせた平らな地

概略予定行程





3. 日枝神社

特記するほどの神社ではない。小川用水の清流が印象的。

4. 武内家の大ケヤキ

小平市天然記念物第1号の由。しかし、筆者には、武蔵野において大ケヤキはいたるところにあり感動なし、である。

5. 小川寺 (しょうせんじ)

小川九郎兵衛開基、医王山と号する臨濟宗円覚寺派の寺院。

小川九郎兵衛の墓が小平市史跡第3号、梵鐘 (奥の鐘楼のもの) が小平市有形文化財第4号。

6. 小平神明宮

遷宮で今この地にあるが、小川九郎兵衛が出身の岸村 (現武蔵村山市) にあった産土神を奉戴してきた旧小川村の鎮守社。ここに小平市有形文化財第6号の小川村開拓碑がある。

7. 野火止用水

別名「伊豆殿堀」。松平伊豆守の菩提寺平林寺の美をも形成し、下流の多くの町村灌漑用水となっている。上図に対し、野火止用水と千川用水は直に玉川上水からの分水に戻した。

小川村開拓碑説明板 (部分)

承応3年 (1654) 玉川上水が完成し、ついで野火止用水が完成して通水すると、水の問題が解決できる成算を得た小川九郎兵衛は、明暦2年 (1656) 代官今井八郎左衛門に、青梅街道の難渋の地、箱根ヶ崎と田無の間に新たな馬継場の開設と、西は玉川上水と野火止用水の分水地点から東は武蔵野一本榎 (現熊野宮) に至る地域の開発、および玉川上水から開発地域への分水を願い出しました。

1656 小川九郎兵衛、小川の開拓を願い出る

1657 小川九郎兵衛、小川の開拓を始める

小川寺、小川に建てられる

小川九郎兵衛、石灰伝馬と七か村への伝馬を請け負う

1658 日枝神社、小川に建てられる

1661 神明宮、小川に建てられる

3. 新田の開発 : 村請新田と百姓寄合新田

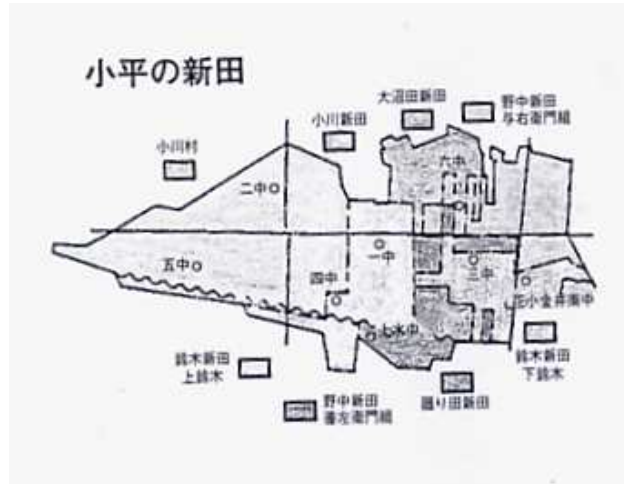
村請新田 (親村が開発請け負う)

小川新田←小川、廻り田新田←廻り田村 (現東村山市回田町)、大沼田新田←大袋村 (現東村山市恩田町)、鈴木新田←貫井村 (現小金井市貫井町) など

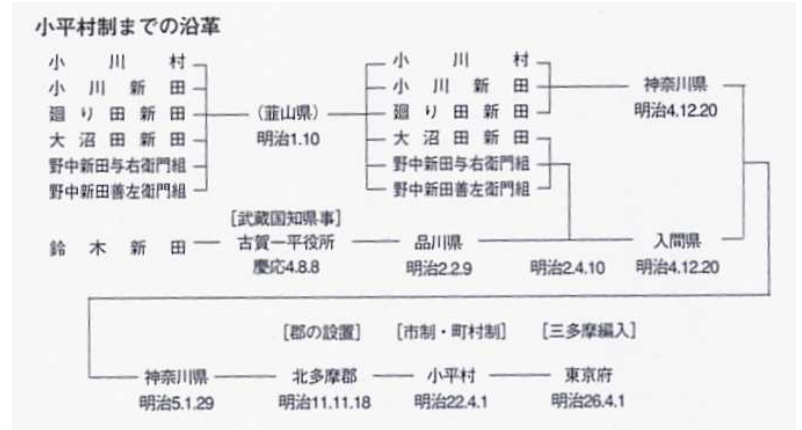
百姓寄合新田

野中新田

実際は多様というか混合型というか



4. 小平の誕生



5. 今回の散策地

1. 青梅橋庚申塔

安永5年(1776)造立、小川村講中の文字塔。裏に「西おうめみち、北山くちみち、東江戸、南八王子」、道標を兼ねている。村山街道を、薬用植物園前を通って南下します。薬用植物園は興味のある方は午後など、改めて見学してください。

2. 小川橋

青梅街道沿いの小川村と五日市街道沿いの砂川村をつなぐ橋。天保13年(1842)に石橋に架け替え。この年に「小川村中、砂川村中」願主造立の、東西南北を刻んで道標を兼ねた石橋供養塔がある。

暗渠化した(明治3年)新堀用水のたて穴から小川用水が出てくる様が見える。

ここから小川用水に沿って立川どうりを歩きます。